



学習1…川の成り立ち・水の流れ・川の中の危険・安全装備などについて話を聞いたり、模擬体験をする。



学習2…スローロープを使ってレスキュー体験(写真上)



学習3…川の泳ぎ方練習(写真上)

七月の大雨の時、荒れる白川を見て、「わあ、泳いだら楽しそう!」と言った子供がいました。川を知ること、川の恐ろしさ、川の楽しさを実感することの必要性を感じます。今回は、川を含む自然を知り、川の流れを知り、川や水と親しむ導入とするための寺子屋を実施しました。半日コースの学習でしたが、終わるのが名残惜しくなった寺子屋でした。

# 白川わくわくランド 夏休みの思い出 子ども川の安全教室

白川わくわくランド  
ニュース

第30号

発行  
●白川流域住民交流センター  
(白川わくわくランド)  
〒860-0854  
熊本市東子飼町8-55  
TEL・FAX (096) 346-5454  
ホームページアドレス  
<http://www.wakuwaku-land.com>  
メールアドレス  
[wakuwaku@wakuwaku-land.com](mailto:wakuwaku@wakuwaku-land.com)

「さあ、勇気を出して!」  
指導者に促されて飛び込み!!  
川での安全な泳ぎ方・川の流れ  
を利用した横断の仕方など学  
習した後は川遊びを満喫。  
(写真 左)

## 白川の橋(26)

### 白川橋

河口から数えて26番目の橋。

九州自動車道の植木・熊本間に架かる。橋長は235mで白川に架かる部分は151mである。

竣工は、昭和46年6月30日で、九州では初めて熊本・植木間に高速道路が開通した。

右岸は熊本市龍田町弓削、左岸は熊本市上南部になる。



<写真提供>国土交通省 立野ダム工事事務所

## 水鉄砲を飛ばそう!!

### あつい夏を吹っ飛ばし、水かけっこ

6月23日に「水鉄砲作り」の寺子屋を実施して以来、この夏は連日、水鉄砲遊びでわくわくランドの玄関先は賑わいました。水鉄砲作りを指導してくださったのは、熊本市黒髪在住の木村茂氏ですが、子供たちの遊ぶ姿に目を細め、「子供たちには、遊びを通して科学的にもものを見る目や、遊び道具を考えながら作る喜びを知ってほしい。」と話されます。

わくわくランドでも、消耗しやすい筒の部分の巻き布は、子供と一緒に付け替えるようにしています。



## 白川わくわくランド寺子屋(2)

### 「黒川源流探検」

日 時 二〇〇七年八月八日(水) 九時～十六時半  
参加者 十五名

どこまでも澄み切った空が広がる夏の一日、白川上流で子供向けの寺子屋を実施しました。今回は、北外輪山と阿蘇谷一帯を中心に、自然と人々の生活の関わりを学習しました。

特に「熊本市あそキャンプ場」は溪流あり林ありの敷地で、存分に自然の豊かさを学習させてもらいました。北外輪山から流れ下る水は清らかで、サワガニやカゲロウ類の幼虫、タカハヤの稚魚などが観察できました。キャンプ場の方が事前に川の中の整備をしておられ、安全な観察会ができたこともうれしいことでした。



豊後街道の一部、二重峠を下る。眼下に広がる阿蘇谷の風景に、旅人は一時のやすらぎを得たことだろう。真夏なのにここには清風が吹く。黒川のショートカットも確認できた。



二重の峠を下る途中に湧水している場所があり、その清水が道を横切って流れ下る。その冷たさに思わず手をつけて楽しむ子供たち。石の間にサワガニも発見し、二重の喜び。

### 内牧遊水地で



内牧の黒川遊水地でその働きを聞く。奥に黒川が流れ、越流堤が見える。その後、堤防の斜面で草スキーを楽しむ。やっぱり、子供は遊びの名人。自然の中で、自分の遊びを見つける。

### 熊本市あそキャンプ場で遊ぶ



キャンプ場内を流れる「アマゾン川」の水の冷たさにまずびっくり。その後は、生き物探しをしたり、水の掛け合いをしたり...

「いるかな？」  
クワガタ探し。

## 立野ダム上下流子供交流会

【日程】二〇〇七年八月二十三日、二十四日  
【参加人数】七十九名(二十三日)五十九名(二十四日)  
【参加小学校】白川小学校、長陽小学校(二十三日)  
白川小学校、立野小学校、長陽西部小学校(二十四日)

八月二十三、二十四日

に阿蘇郡南阿蘇村の立野ダム建設予定地周辺で、白川の上流と下流に住む小学生の流域間交流と立野ダム事業への理解を目的として「立野ダム上下流子供交流会」(主催：立野ダム工事事務所、協力：NPO法人白川流域バーネットワーク)が行われました。

立野ダム建設の目的や役割について模型やパネルなどを用いて分かりやすく説明がありました。その他、ダム建設の調査で掘られた横穴の見学なども行いました。

また、体験を通して川の楽しさ、恐さ、自然を学んでもらおうと川の安全講習、カヌー体験、飛び込み体験が行われました。夏の暑い中であつたため、子どもたちは上流の冷たい水をとて気持ちよさそうに感じていました。



ダムの説明



横穴見学



飛び込み体験



模型によるダム説明



川の安全講習



シロタニガワカゲロウ・ヒラタカゲロウ・ヒゲナガカワトビゲラ・チラカゲロウなどの幼虫が多くいました。「白川って意外ときれい!!」が参加者の声でした。

熊本大学工学部裏の白川河川敷で水生生物の採集をした後、採集したものをわくわくランドで調査しました。採集した生き物の種類と数で白川の水質の判断の方法とします。



この夏は、自由研究で白川わくわくランドを訪れた親子連れが、八〇組以上ありました。七月中旬までは白川の水かさが多く、水生生物調査ができなかった分、夏休みが始まって川の状態が良くなったら、一気に調査に訪れる子供たちが増えました。「暑い!暑い!」

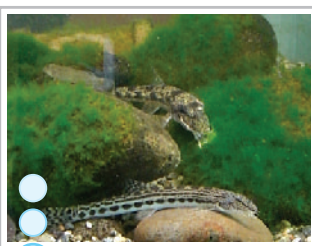
河川敷に着くまでは悲鳴をあげていた子供たちも、川に入ったら夢中になって石ころを持ち上げながら生き物探し。時には、モクズガニやナマズの稚魚なども取れて歓声が上がりました。わくわくランドで、調査後のまとめをして「生き物の命・命のつながり」などについても、思いを巡らしました。

## 夏休み・白川から学ぶ 水生生物調査・水質などの自由研究

### 白川の生き物たちの夏



わくわくランドの水槽に入って2カ月になる白川のアユ。7月の増水の時に網にかかった。白川のコケを食べて元気に泳ぐ。手前はオイカワ。稚魚から育てて5センチほどになった。



水槽下の砂場でカマツカ・シマドジョウが餌を求める。



水生生物調査の時に一緒に獲れたナマズの稚魚。



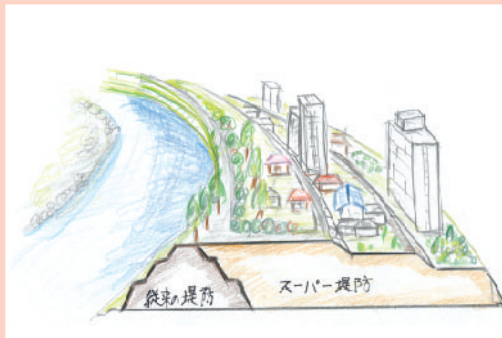
釣り人に釣り上げられた白川の住人(?) スッポン。



アユがコケを食む瞬間

### 川の豆知識 ⑭ 「スーパー堤防」

洪水被害を防ぐために注目されているスーパー堤防は、大洪水が発生し川の水位が堤防の高さを超えたとしても決壊しない、堤防の高さの約30倍の広い幅をもつ安全な堤防です。そのため、建物や公園など普通の土地利用ができます。



現在、荒川の流域に完成していて、堤防の上に遊歩道や公園ができ、堤防の幅が200mから300mになります。